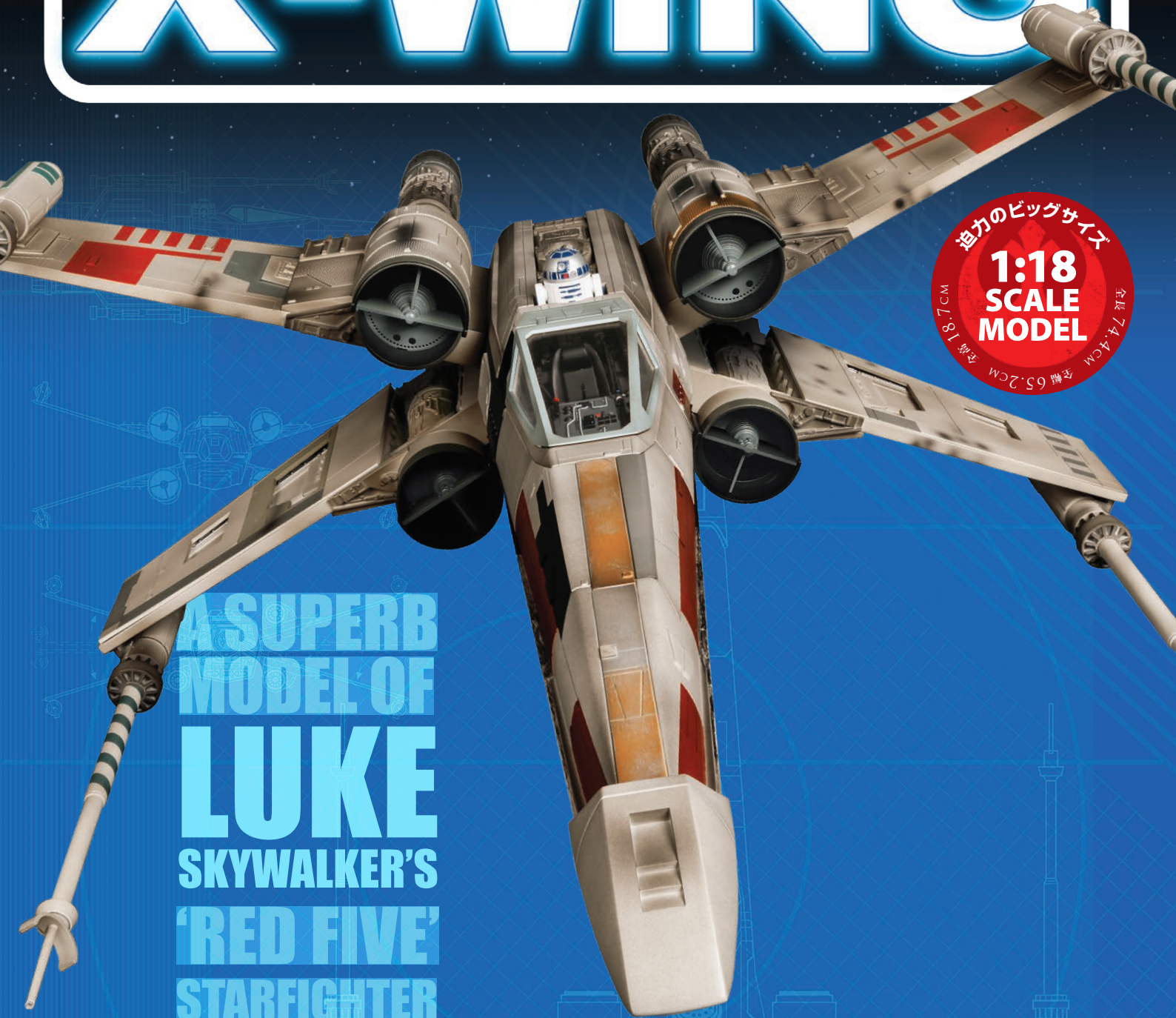


STAR WARS™

25

BUILD YOUR OWN

X-WING



迫力のビッグサイズ
1:18
SCALE
MODEL
全長 74.4cm
全幅 65.2cm
高さ 18.7cm

A SUPERB
MODEL OF
LUKE
SKYWALKER'S
'RED FIVE'
STARFIGHTER



DEAGOSTINI

第25回配本 組立内容

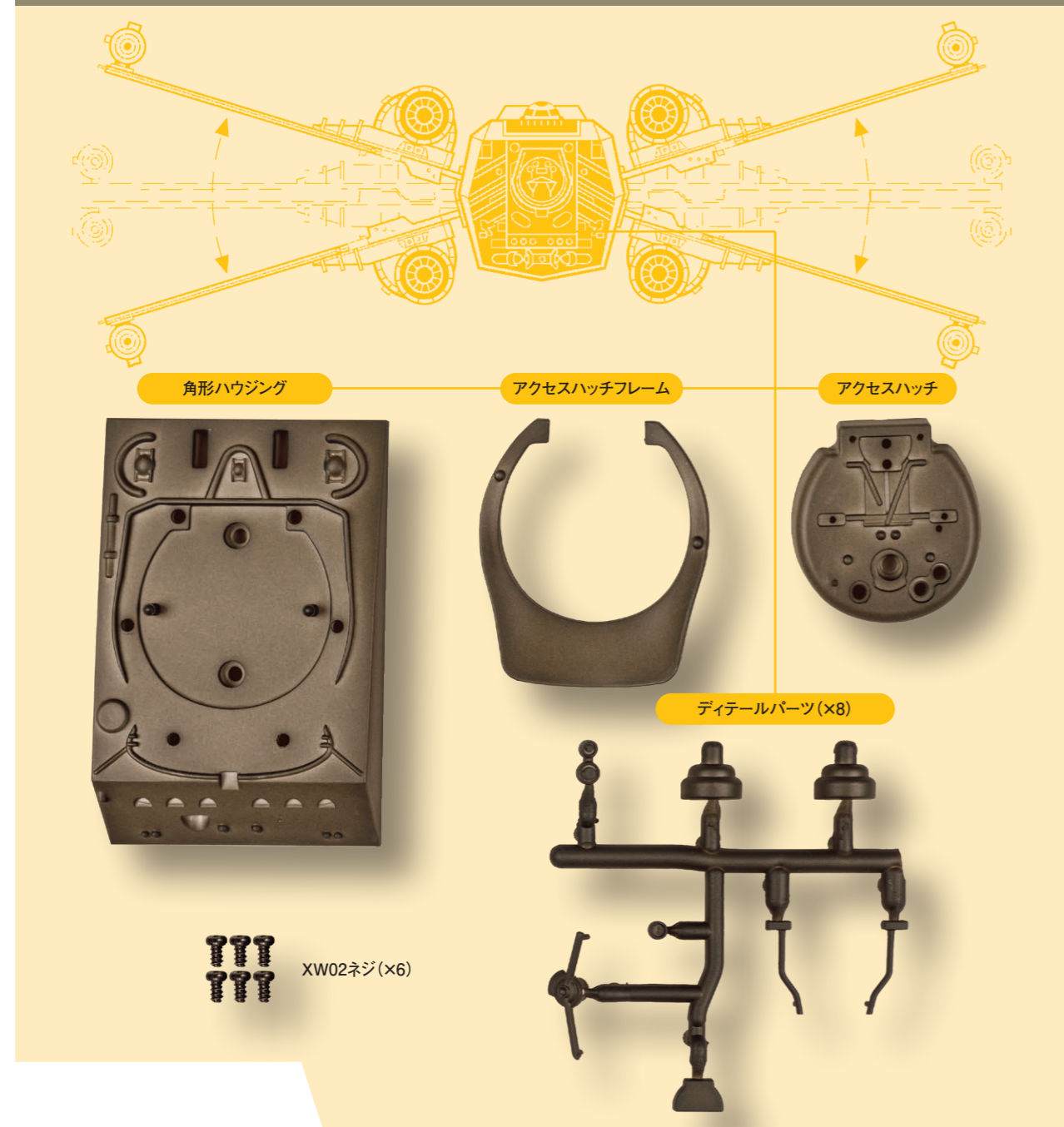
STAGE 97	後部胴体ディテールパーツ	614
STAGE 98	中央・後部胴体パネル	624
STAGE 99	前方着陸脚.....	630
STAGE 100	後方着陸脚.....	638

後部胴体ディテールパーツ

提供パーツで、後部胴体のディテールを完成させる。胴体の中央には、真ん中に丸いアクセスハッチが付いた角形ハウジングがある。

ステージ97の提供パーツ

部品が揃っているかを確認し、それぞれがXウイングのどの部分を構成するのを見よう。

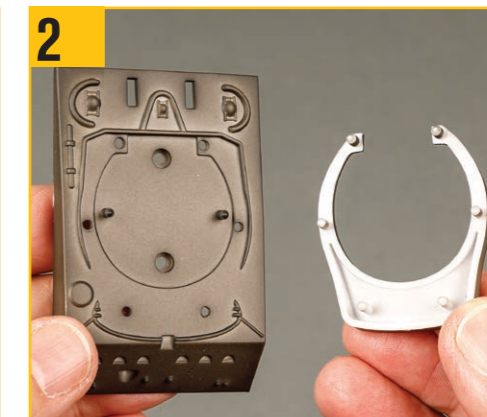


ディテールパーツの取り付け

すべてのパーツは単純な押し込み式だが、小さな部品の安定性を高めるために、数滴の瞬間接着剤の使用をお勧めする。



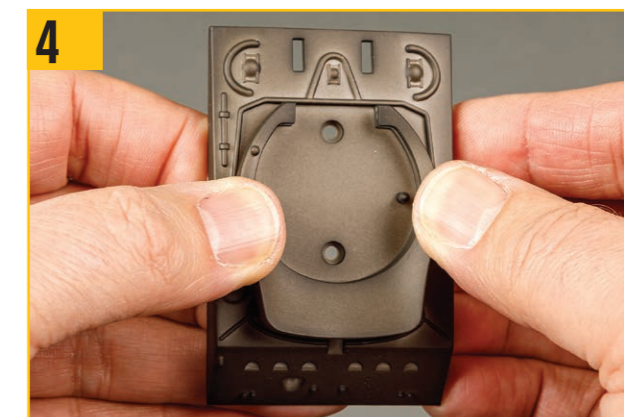
1 提供パーツをすべて用意する。



2 まず、角形ハウジングとアクセスハッチフレームを用意する。これらは写真のように組み合わせられる。



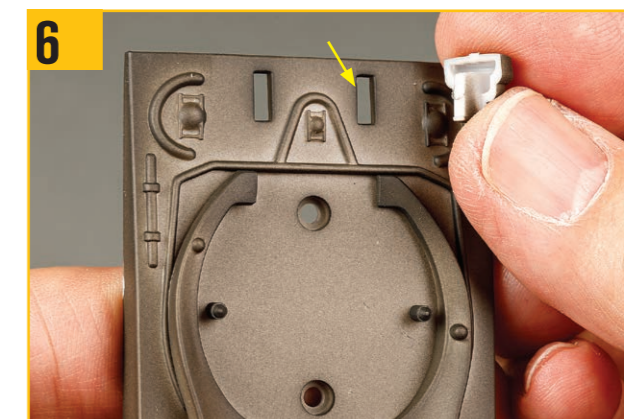
3 6本の位置決めピンを一致する穴に取り付ける。



4 フレームをしっかり押し込む。



5 写真のディテールパーツをランナーから切り離す。



6 背面の長いタブを写真のスロットに合わせる。



ディテールパーツをしっかりと押し込む。



次に、写真のディテールパーツを切り離す。



ディテールパーツを手順6の隣のスロットに取り付ける。



これで、角形ハウジングは写真のようになる。



写真の「8」のように見えるディテールパーツを切り離す。



アクセスハッチを用意し、写真の位置に小さい方の円を上にして取り付ける。



パーツを押し込む。



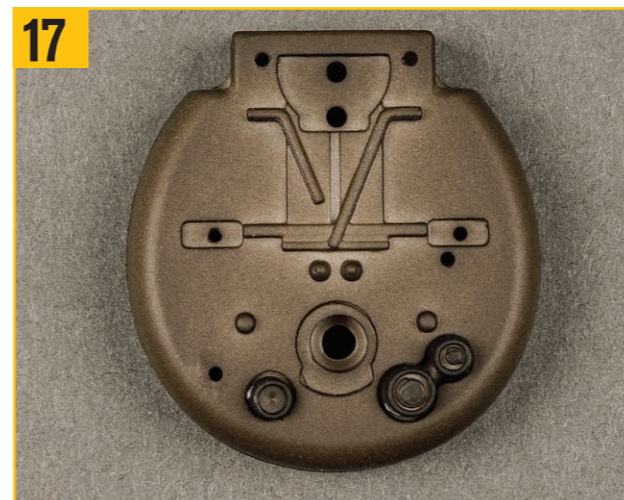
写真のようになる。



小さな円形のディテールパーツを注意深く切り離す。



ディテールパーツを写真の位置に取り付ける。



アクセスハッチは写真のようになる。



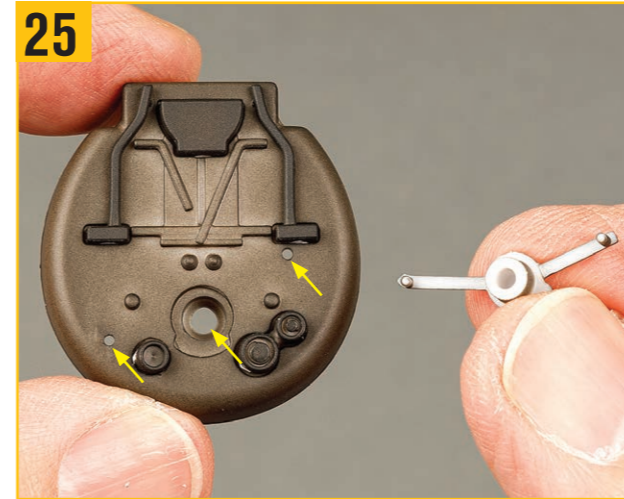
次に、写真のディテールパーツを、直線のエッジの近くで切り離す。



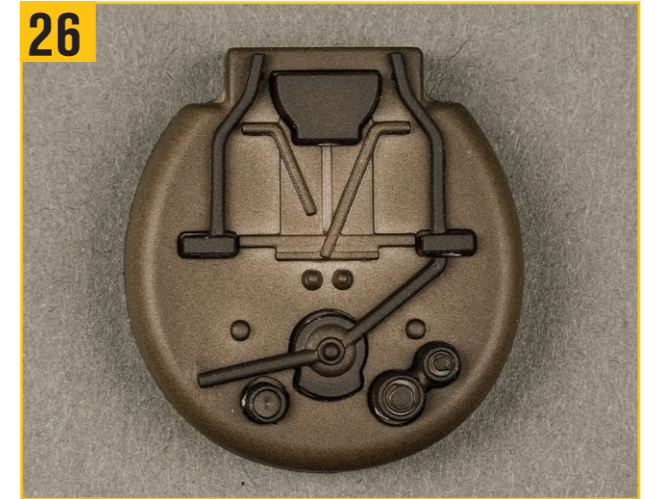
写真のくぼみにディテールパーツを取り付ける。



パーツは写真のようになる。



最後のディテールパーツを切り離し、3つのピンを合わせ取り付ける。



パーツは写真のようになる。



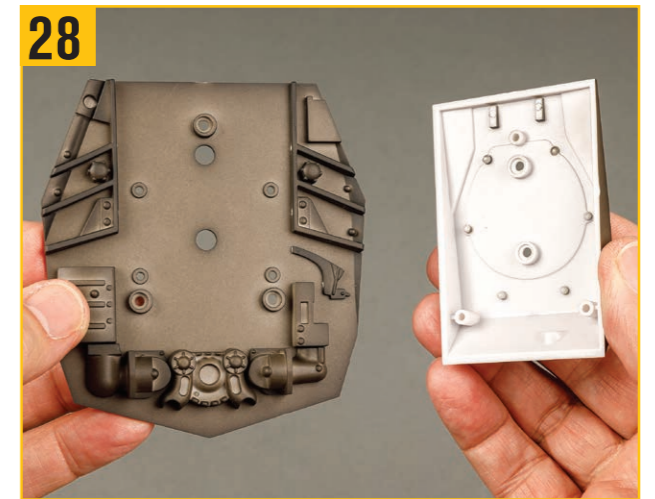
写真のディテールパーツを切り離す。



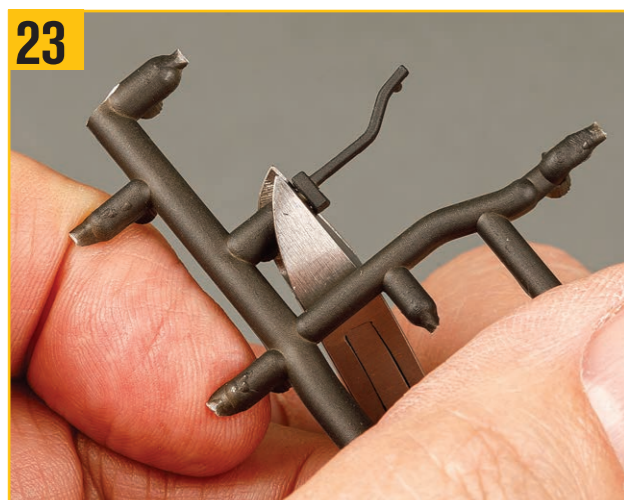
ディテールパーツの端を、写真のくぼみに取り付ける。



写真のように完成した2つのサブパーツと、ステージ96で組み立てた後部胴体ベースパネルを用意する。



角形ハウジングのピンを後部胴体ベースパネルの対応する穴に合わせる。



写真のディテールパーツを切り離す。



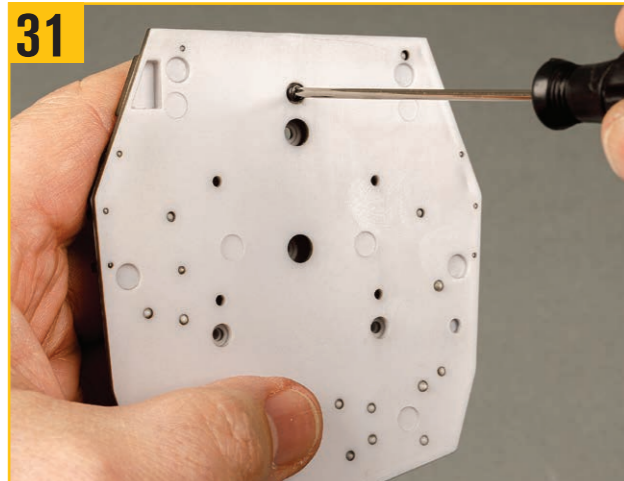
ステップ22と同様に、ディテールパーツの端を写真のくぼみに取り付ける。



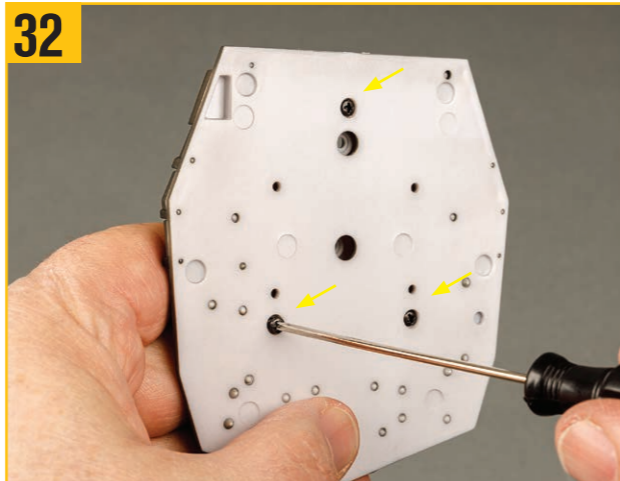
パーツを合わせる。



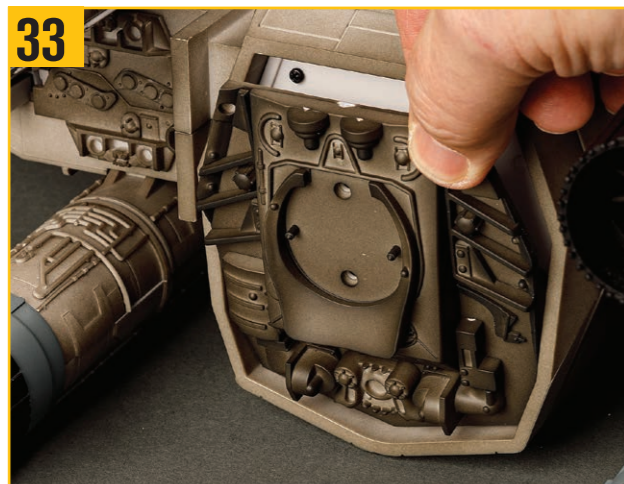
パーツをしっかりと押し込む。



31 後部胴体ベースパネルの裏側からXW02ネジで固定する。



32 写真のように、さらに2本のXW02ネジを追加し、3点で固定する。



33 後部胴体ベースパネルを胴体の後ろに取り付ける。



34 しっかりと押し込む。



35 写真のようにXW02ネジで、後部胴体ベースパネルを固定する。



36 写真の位置を2本目のネジで固定する。



37 最後に、アクセスハッチを用意する。



38 位置決めピンをハウジングの対応する穴に押し込む。

これでこのステージは完了だ。X-wingは写真のようになる。





Sフォイル・ サーボ駆動装置

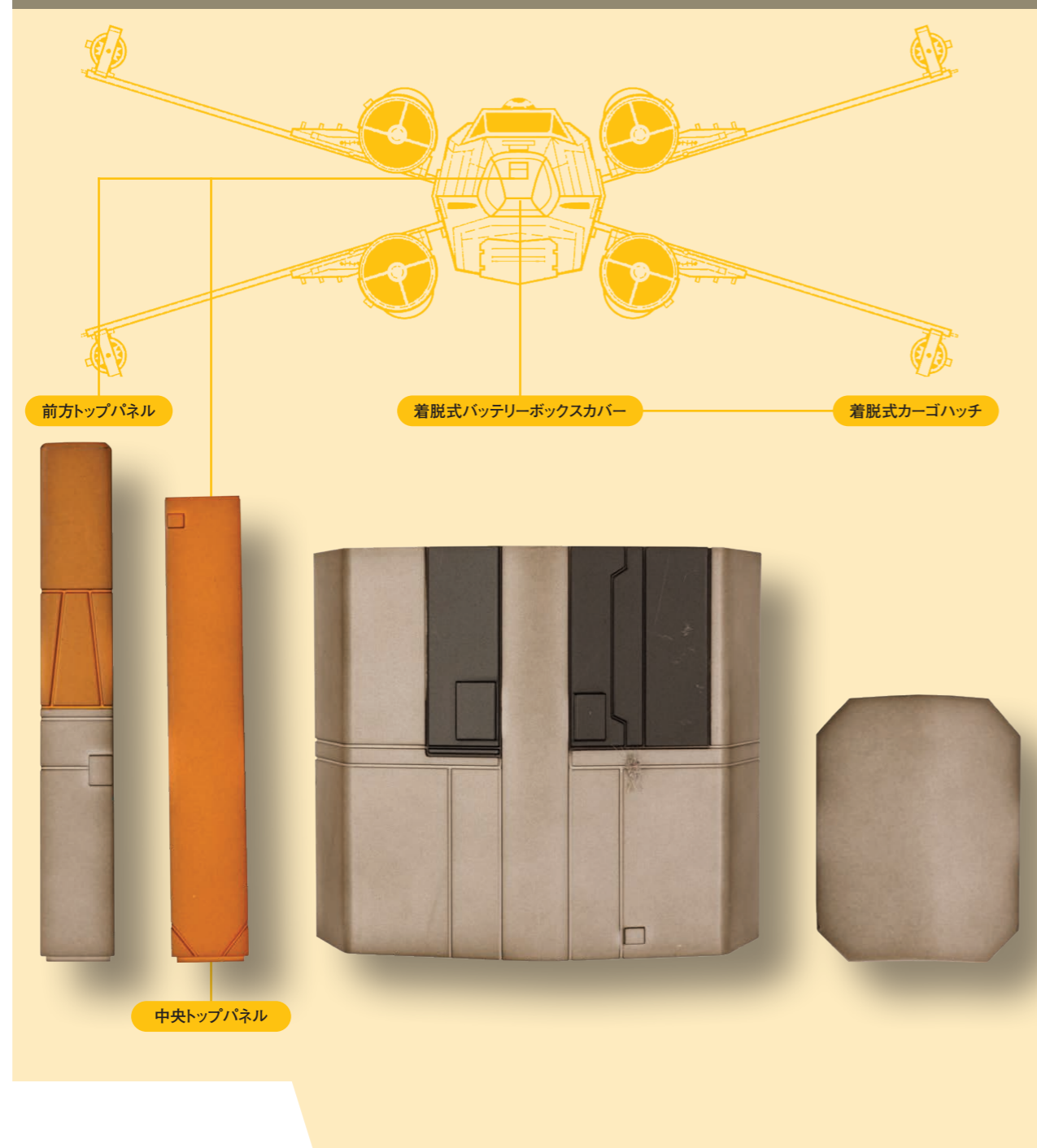
T-65B X-wing・スターファイターの後部胴体に組み込まれた多くの機器の中には、Sフォイル・サーボ駆動装置がある。胴体の最後部に位置するこのメカニズムは、戦闘時や最高速度での飛行時にX-wingのSフォイルを動かす役目を果たした。

中央・後部胴体パネル

提供パーツで、外装の残りの隙間をカバーする。また、着脱式のバッテリーボックスカバーとカーゴハッチを取り付ける。

ステージ98の提供パーツ

部品が揃っているかを確認し、それぞれがXウイングのどの部分を構成するのか見てみよう。



パネルの取り付け

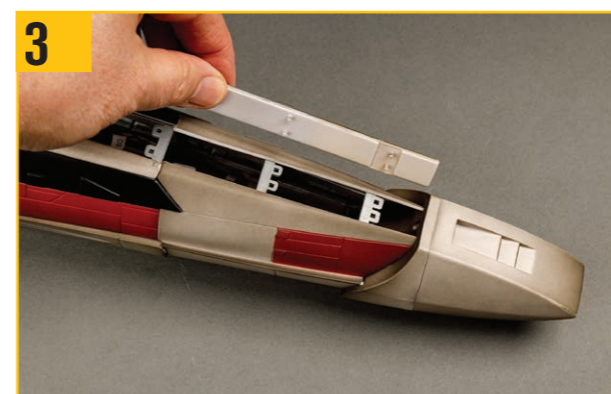
パネルは単純な押し込み式だが、すべてのパーツを正しく配置すること。特にオレンジ色の中央トップパネルは、一端はコックピットサラウンドの下に収まり、もう一端は前方トップパネルの上に収まる。



すべての提供パネルとX-wing本体を用意する。



写真の前方トップパネルを用意する。



前方トップパネルには、フレームの穴に合わせて多数の位置決めピンがある。



前方トップパネルを写真のように合わせ、しっかりと押し込む。



写真のように中央トップパネルを用意し、手順6に示すように後端を取り付ける。



中央トップパネル後端の薄い縁をコックピットサラウンドの下に押し込む。



7 平らになるように押し込む。



8 写真のように、中央トップパネルの前端は隣接する前方トップパネルの上に収まる。



9 バッテリーボックスカバーは写真のように、3つの小さな磁石で固定される。



10 バッテリーボックスカバーを写真のように取り付ける。



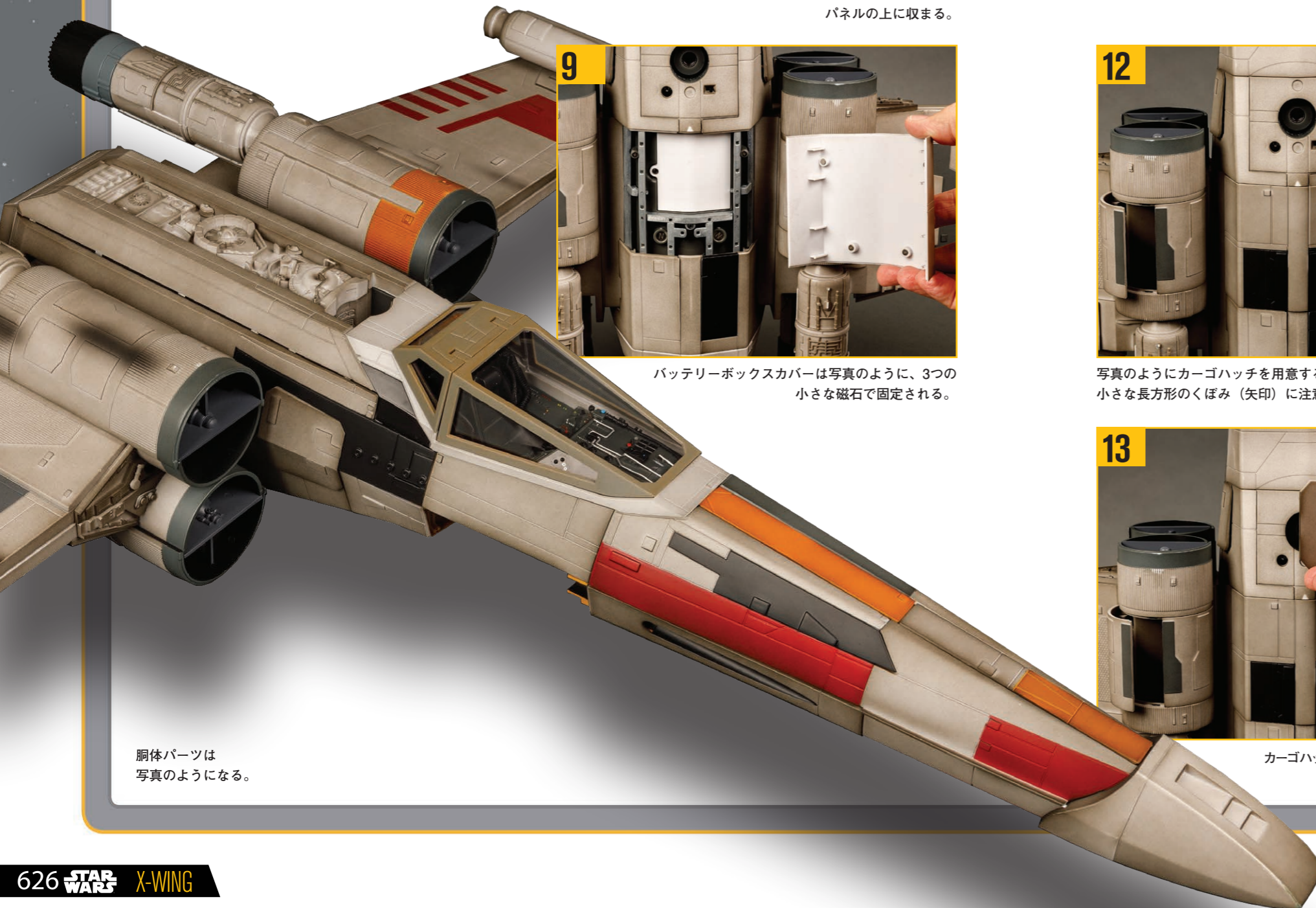
11 平らに収まっていることを確認する。



12 写真のようにカーゴハッチを用意する。小さな長方形のくぼみ（矢印）に注意する。



13 カーゴハッチを磁石でしっかりと固定する。



胴体パーツは写真のようになる。



これでこのステージは完了だ。

船体パネル

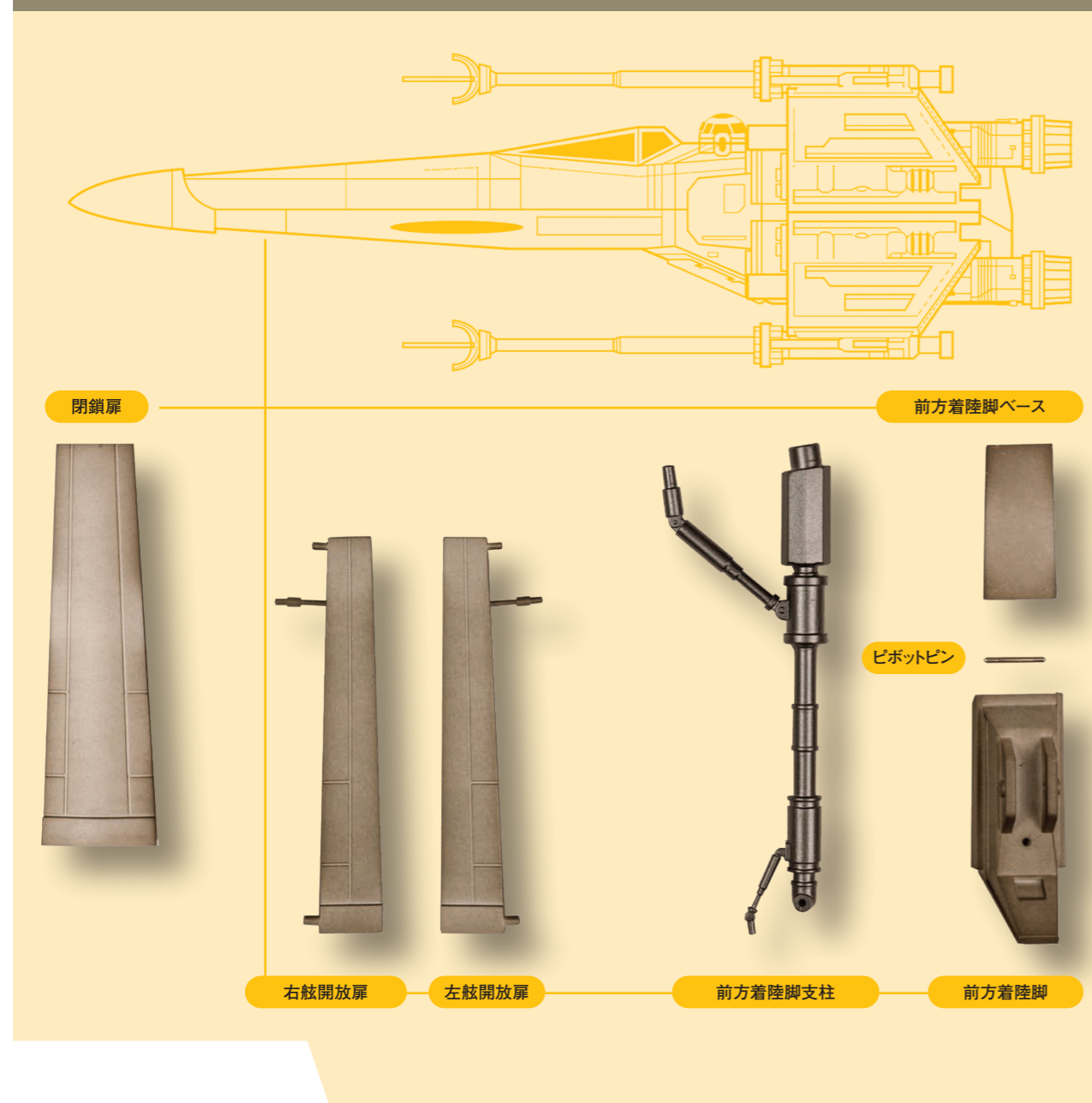
限られた資源の中でメンテナンスを行うため、反乱同盟軍の整備士は、手に入る部品を修理して間に合わせなければならなかった。他の反乱軍のスターファイターと同様に、レッド5の外部パネルも、他の船からリサイクルされた不揃いな部品の寄せ集めであった。

前方着陸脚

提供パーツは着陸時にX-wingの前部を支える前方着陸脚のパーツだ。また、展示する姿勢によって取り付けを選択する。開放扉と閉鎖扉の2種類の扉も用意されている。X-wingの展示は、基本の着陸姿勢に加え、別売りの専用ディスプレイブラケット(壁掛け器具)を機体に取り付けることで、翼を完全に開いた飛行姿勢での展示も可能である(購入方法・詳細は648ページ参照)。着陸姿勢のX-wingを展示する場合は、635ページの「閉鎖扉の取り付け」は省略する。飛行姿勢のX-wingを展示する場合は、631~634ページ・手順3~17の「前方着陸脚の取り付け」は省略する。

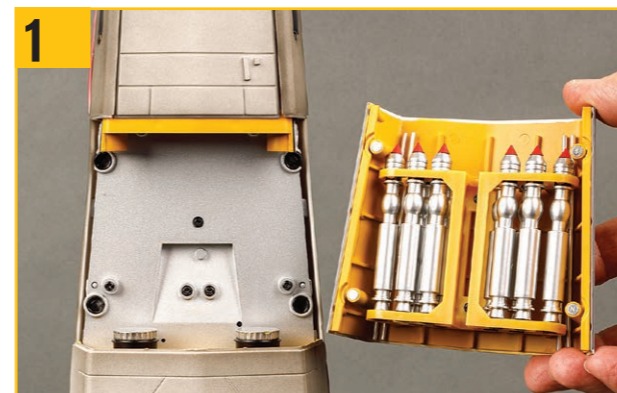
ステージ99の提供パーツ

部品が揃っているかを確認し、それぞれがXウイングのどの部分を構成するのを見よう。



魚雷ベイと前方着陸脚の取り付け

まず魚雷ベイを取り付ける。そして、モデルを着陸姿勢で展示する場合は、胴体の下側に開放扉を追加し、前方着陸脚を取り付ける。



1 完成した魚雷ベイパーツを用意し、写真の開口部に合わせ、4つの磁石を確認する。



2 下側のパネルが平らになるように魚雷ベイを取り付ける。



3 2つの開放扉と前方着陸脚のパーツを用意する。



4 左舷開放扉を写真の位置に合わせる。



5 位置決めピンを穴に押し込む。



6 左舷開放扉は写真のように収まる。



手順4~5と同様に、右舷開放扉を取り付ける。



写真のように前方着陸脚を前方着陸脚支柱の端に合わせる。



斜めの支柱にある小さな位置決めピンを穴に合わせ、メイン支柱の端にある穴を側面の穴に合わせる。



ピボットピンを前方着陸脚の側面と支柱の穴に通す。



ピボットピンをゆっくりと押し込み、前方着陸脚全体に通す。



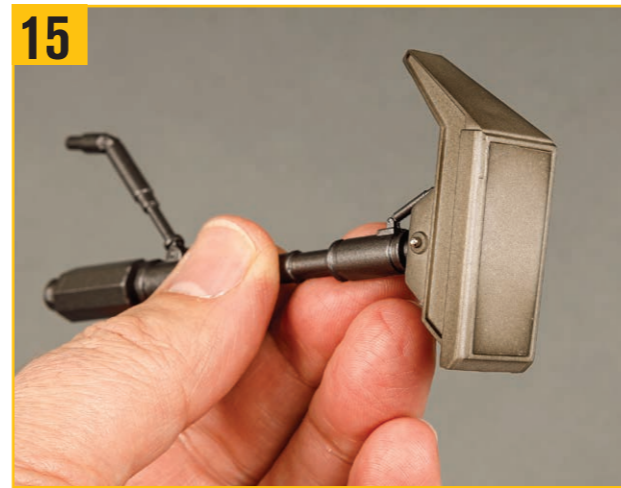
写真のようにぴったりと収まる。



前方着陸脚ベースの2つのピンを前方着陸脚の穴に合わせる。前方着陸脚ベースは一方方向にしか収まらないことに注意する。



前方着陸脚ベースをしっかりと押し込む。



パーツは写真のようになる。



もう一端のメイン支柱と斜めの支柱を写真の穴に差し込み、前方着陸脚を取り付ける。

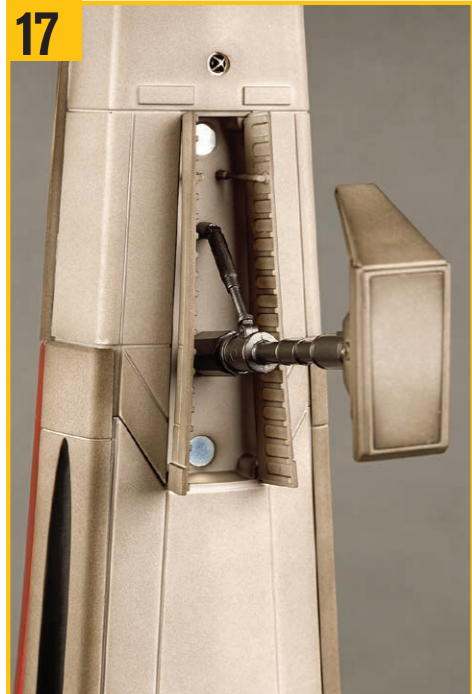
トラブルシューティング

着陸装置のロックアウト

着陸装置のロックアウトスイッチ（矢印の穴にある）は、前方着陸脚を差し込むことで作動する。これは、着陸姿勢で翼を開くとウイングメカニズムを破損する恐れがあるため、翼が開かないようにするためのものだ。この段階でスイッチが正しく機能することを確認することは重要だ。X-wingの電源を入れ、ステージ72で行ったテストと同様に、誰かにモデルを支えてもらいながら、リモコンの中央のボタンを押し、動作確認を実行する。

着陸装置のロックアウトが機能しない場合
メイン支柱の大きな位置決めピンが穴の奥まで押し込まれていることを確認する。





前方着陸脚は写真のようになる。モデルの重量を支え、ロックアウトスイッチを 작동させる必要があるため、しっかりと固定されていることを確認する(633ページのトラブルシューティングを参照)。



これでこの
ステージは完了だ。
胴体パーツは
写真のようになる。

閉鎖扉の取り付け

飛行中は、X-wingの着陸脚が格納され、扉が閉じられるため、飛行姿勢で展示する場合は、その開口部を覆うようにパネルを取り付ける必要がある。



閉鎖扉をノーズの開口部に合わせ、2つの磁石を確認する。



閉鎖扉をくぼみに取り付け。



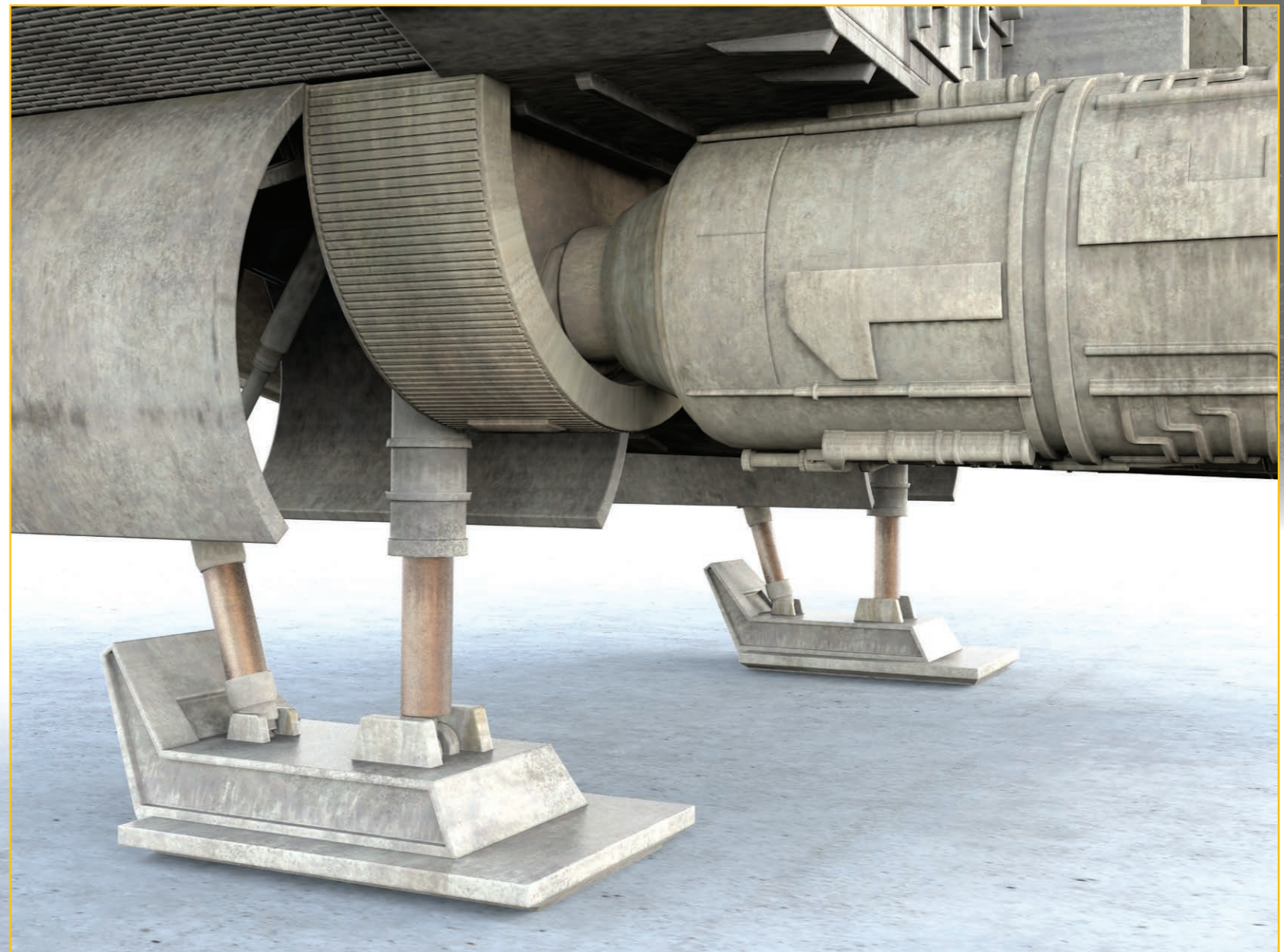
写真のように、平らに収まっていることを確認する。



着陸姿勢の展示に組み変える場合は、閉鎖扉を取り外し、631ページの手順に従う。

着陸脚の構成

X-wingには3つの格納式着陸脚があり、不整地でもスターファイターが常に安定したベースを維持できるようになっている。安定性を高めるための前方着陸脚が1つと、重量の大部分を支えるために2本の支柱を備えた後方着陸脚が2つあり、「三輪車」のようなレイアウトで配置されている。すべての支柱には、着陸時の負担を軽減するための伸縮式の衝撃吸収装置があり、着陸脚は着陸パッドの表面の小さな凸凹に対処する要となる。

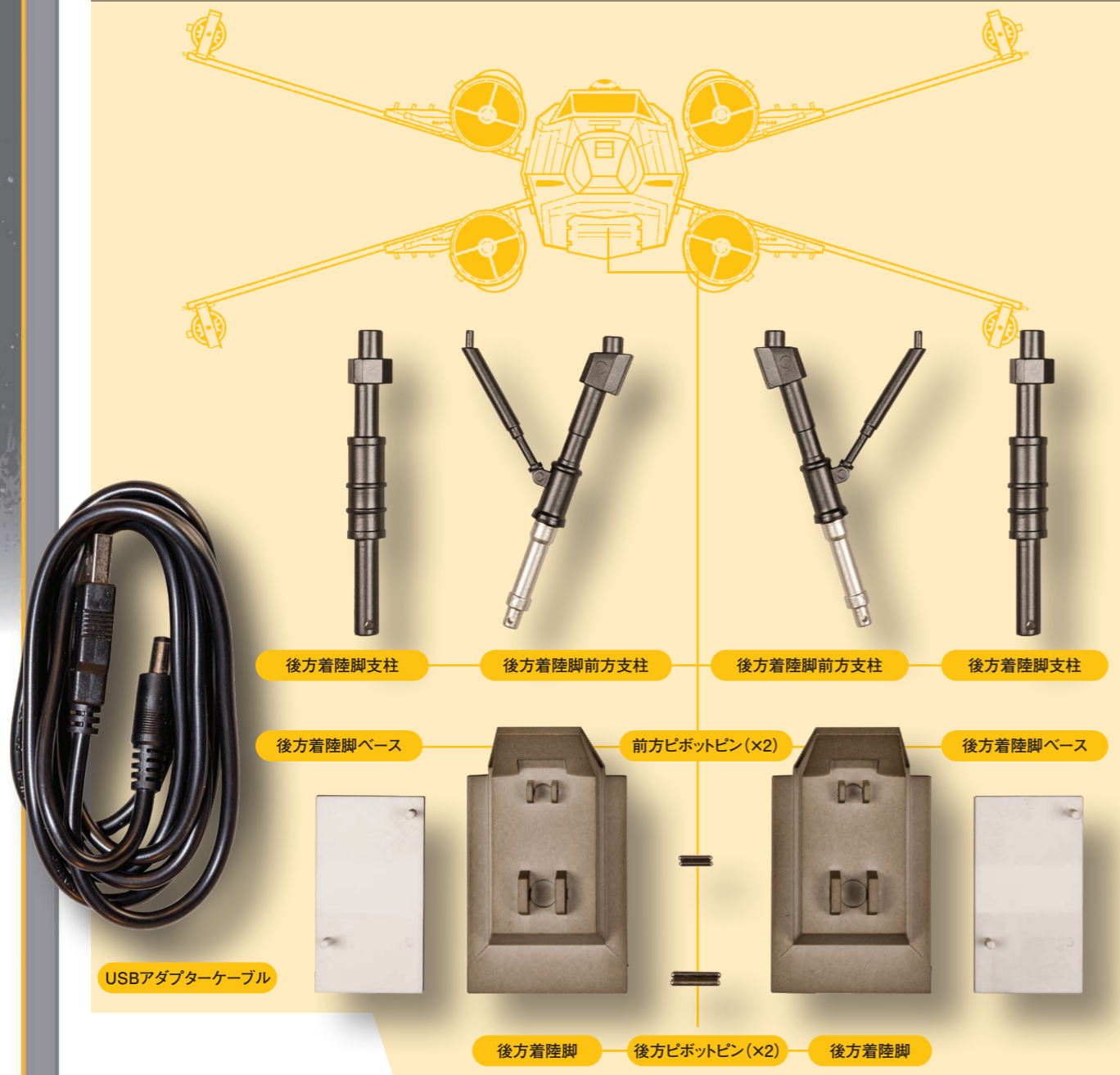


後方着陸脚

提供パーツは2つの後方着陸脚のパーツだ。後方着陸脚は、着陸時にX-wingの重量を支えるために、下部サブライトエンジンの下に配置されている。飛行姿勢のX-wingを展示する場合は、639~642ページの「後方着陸脚の取り付け」は省略し、643ページの「レーザーキャノンの取り付け」に進む。展示方法は別売りの専用ディスプレイブラケット(壁掛け器具)の取り付け手順に従う(購入方法・詳細は648ページ参照)。

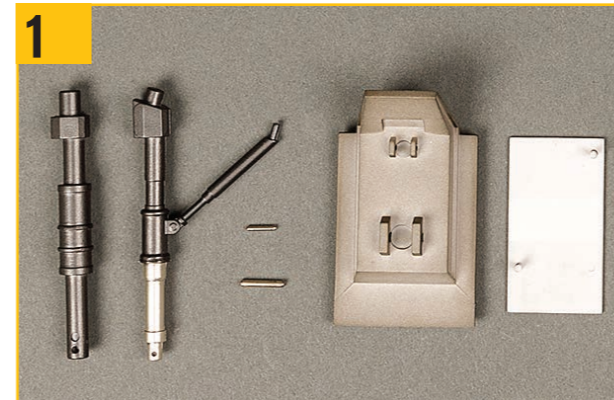
ステージ100の提供パーツ

部品が揃っているかを確認し、それぞれがXウイングのどの部分を構成するのか見てみよう。



後方着陸脚の取り付け

2つの後方着陸脚は同一のため、組み立てと取り付けの手順は同じである。



後方着陸脚のパーツを1セット用意する。



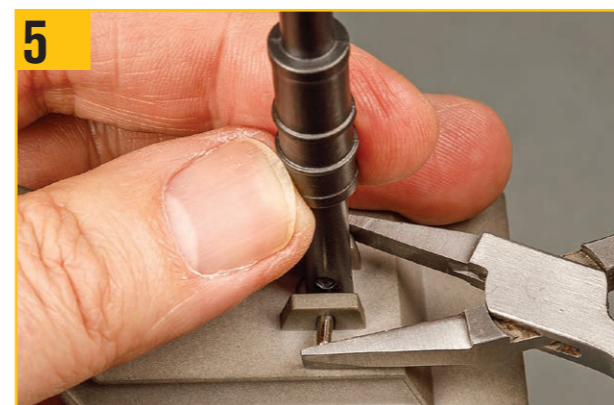
写真のように後方着陸脚に後方着陸脚支柱を合わせる。挿入図を参考に方向を間違えないように注意する。



支柱の端を後方着陸脚の大きなブラケットに合わせ、取り付け穴を揃える。



後方ピボットピン(前方ピボットピンよりも長い)を穴に通す。



ピボットピンを完全に押し込む。



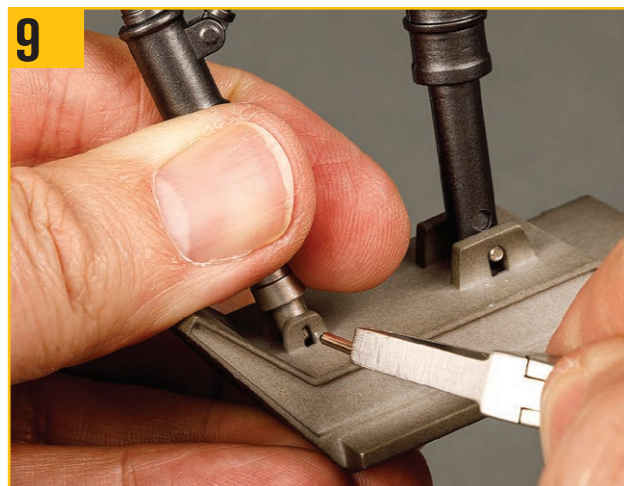
写真のようにぴったりと収まる。



写真のように後方着陸脚前方支柱を用意する。



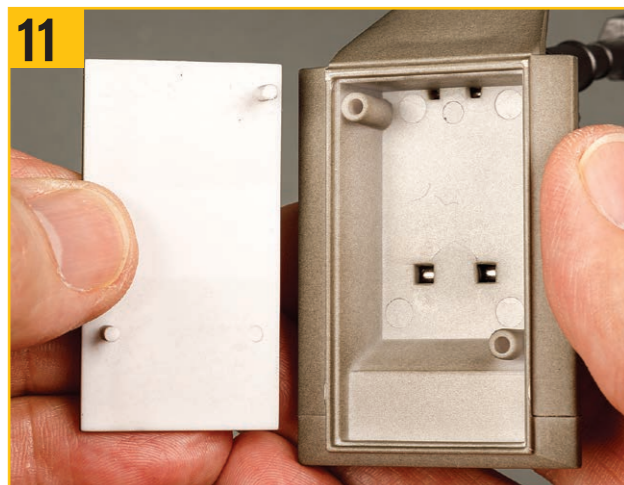
支柱の端を後方着陸脚の小さいブラケットに合わせ、取り付け穴を揃える。



前方ピボットピン（後方ピボットピンよりも短い）を穴に通す。



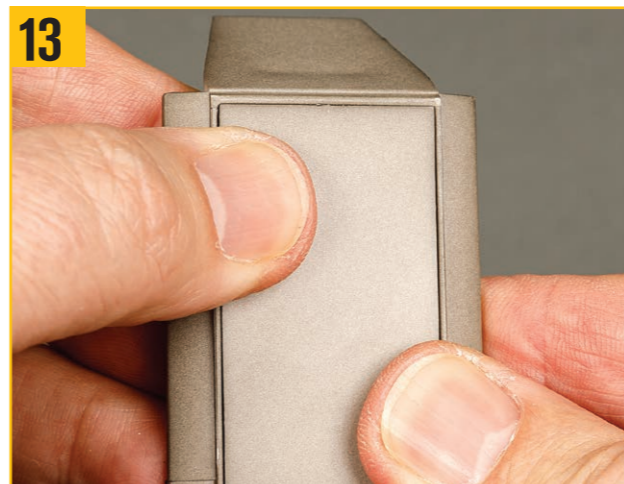
ピボットピンがぴったりと収まるまで完全に押し込む。



後方着陸脚ベースを用意し、非対称に配置された位置決めピンを後方着陸脚の穴に合わせる。



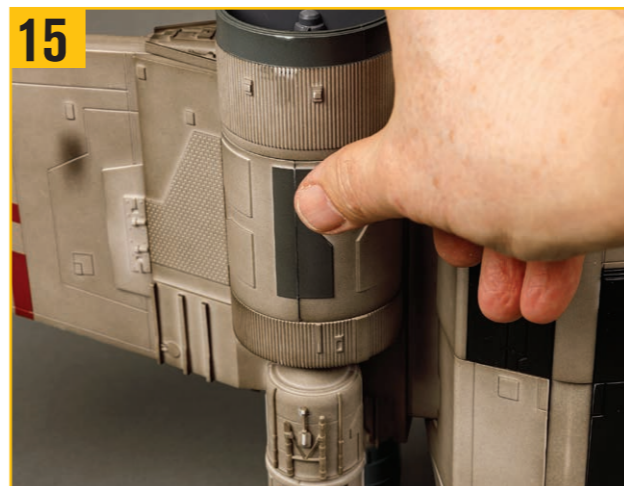
取り付ける。



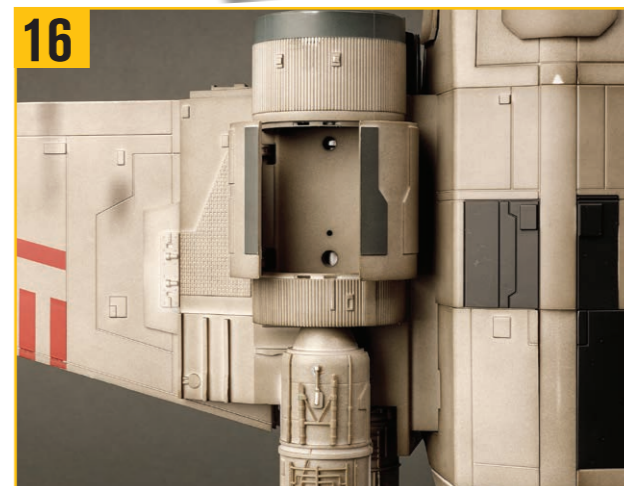
後方着陸脚ベースをしっかりと押し込む。



手順1~13と同様に、2つ目の後方着陸脚を組み立てる。



右舷下翼エンジンの下の着陸装置格納ドアを開ける。



写真のように分かれる。

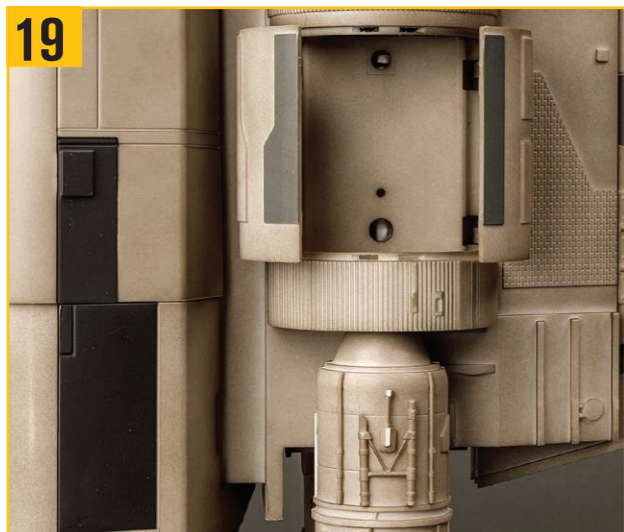


後方着陸脚前方支柱と後方着陸脚支柱を、写真のように3つの取り付け穴に差し込む。



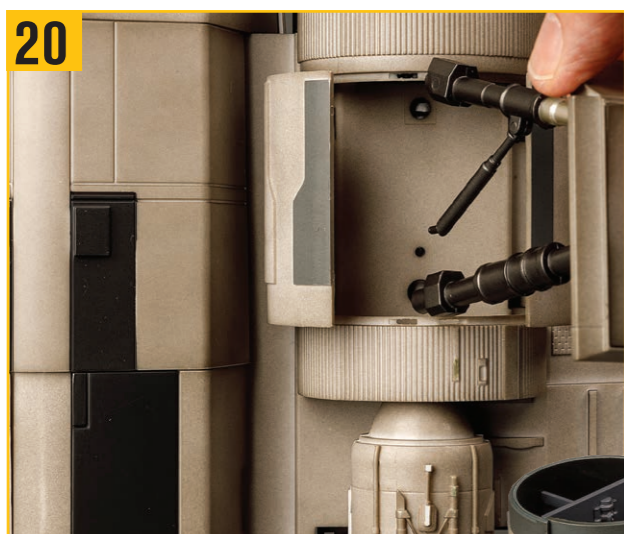
写真のようにしっかりと押し込む。

19



同様に左舷下翼エンジンの下の着陸装置格納ドアを開ける。

20



同様に2つ目の後方着陸脚を取り付ける。

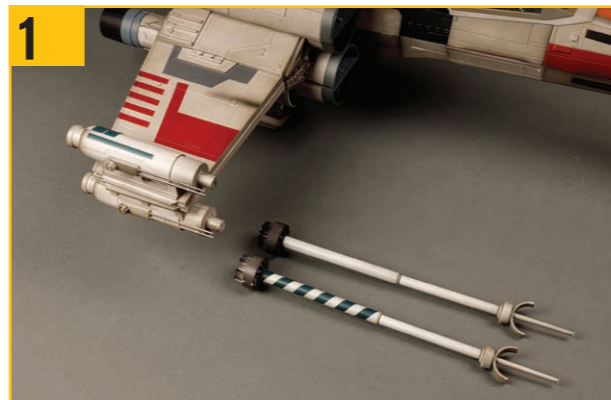


2つの後方着陸脚を取り付けると、パーツは写真のようになる。

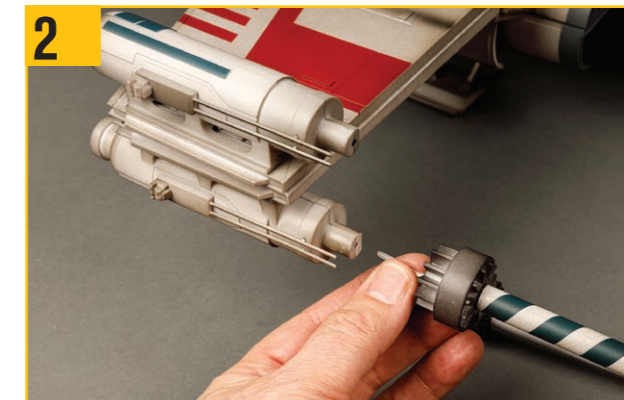
飛行姿勢の展示に組み変える場合は、前方・後方着陸脚と開放扉を取り外し、635ページの手順に従う。

レーザーキャノンの取り付け

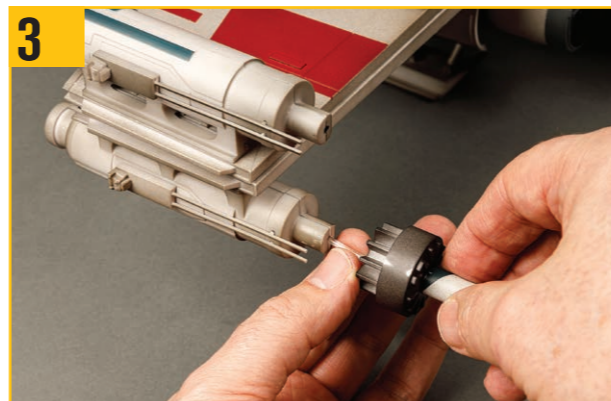
X-wingの残りの部分が完成したので、安全のために取り外したレーザーキャノンを取り付ける。ストライプ模様のレーザーキャノンの位置に注意しよう。



1 ステージ71で取り外した2つの右舷レーザーキャノンを用意する。ストライプ模様の砲身は下翼に取り付ける。



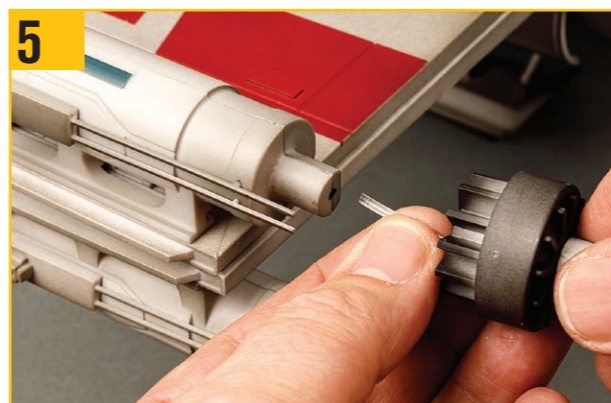
2 光ファイバーの端を取り(砲身から引き出さないように注意する)、レーザーキャノンハウジングの穴に合わせる。



3 光ファイバーを押し込み、D字型の支柱をフロントエンドキャップの穴に合わせる。



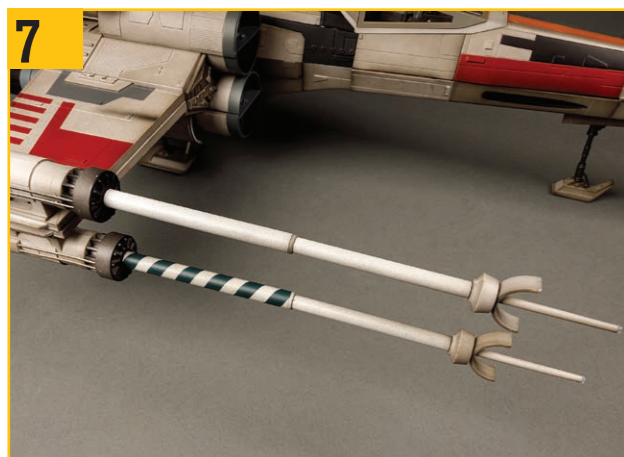
4 レーザーキャノンハウジングの2本のサイドチューブがフロントエンドキャップに収まっていることを確認しながら、完全に押し込む。



5 手順2~4と同様に右舷上翼にレーザーキャノンを取り付ける。



6 右舷上翼レーザーキャノンを押し込む。



7 右舷レーザーキャノンは写真のようになる。必要に応じて、C字型のフラッシュバックサプレッサーを回し、写真のように垂直にする。



8 手順2~7と同様に左舷レーザーキャノンを取り付ける。左舷は、ストライプ模様の砲身を上翼に取り付ける。



9 R2-D2をドロイドソケットに取り付ける。



10 中央脚を取り外して、頭部の駆動スピンドルを露出させる。



11 R2-D2をドロイドソケットに取り付ける。フロントパネルがコックピットを向き、体が正しい方向に向いていることを確認する。



12 R2-D2がソケットに完全に収まるようにするには、駆動スピンドルがドロイドモーターにかみ合うように頭部を少し回転させる必要がある。R2-D2が前を向いていることを確認する。

これで全ステージが完了だ!



卓上ディスプレイ

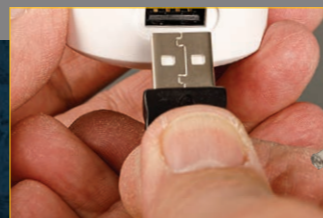
3つの着陸脚をすべて取り付けると、X-wingを「着陸姿勢」で展示出来る。エンジンとレーザーキャノンのライト、R2-D2はすべて作動するが、ウイングメカニズムは破損を避けるために無効になっている。



アダプターをX-wingに接続する

アダプターケーブルの使用

組み立て時は、X-wingの電子効果を電池でテストした。モデルの完成後も電池を使用できるが、メイン電源からX-wingに電力を供給したい場合は、USBアダプターケーブルを用意してある。アダプターをモデル裏側のカーゴハッチの後ろにあるソケットに差し込む。もう一方の端はUSB(Aタイプ)ACアダプターソケットに接続する。これにより、電池が内部回路から自動的に切断される。電池は使用されないため、液漏れに備えてバッテリーボックスから電池を取り外すことをお勧めする。



USBアダプターソケット差し込む

【注意】電池を使用してX-wingの電源スイッチがONの場合には、常にリモコンの電波受信を行っている待機状態で、微弱の電流を使用している。駆動後は必ず電源スイッチをOFFにしよう。また、長期間X-wingを駆動させない場合にも、電池の液漏れを防ぐためにバッテリーボックスから電池を取り外すことを推奨する。

専用ディスプレイ ブラケット(別売)で 迫力の飛行姿勢 ディスプレイを楽しもう!

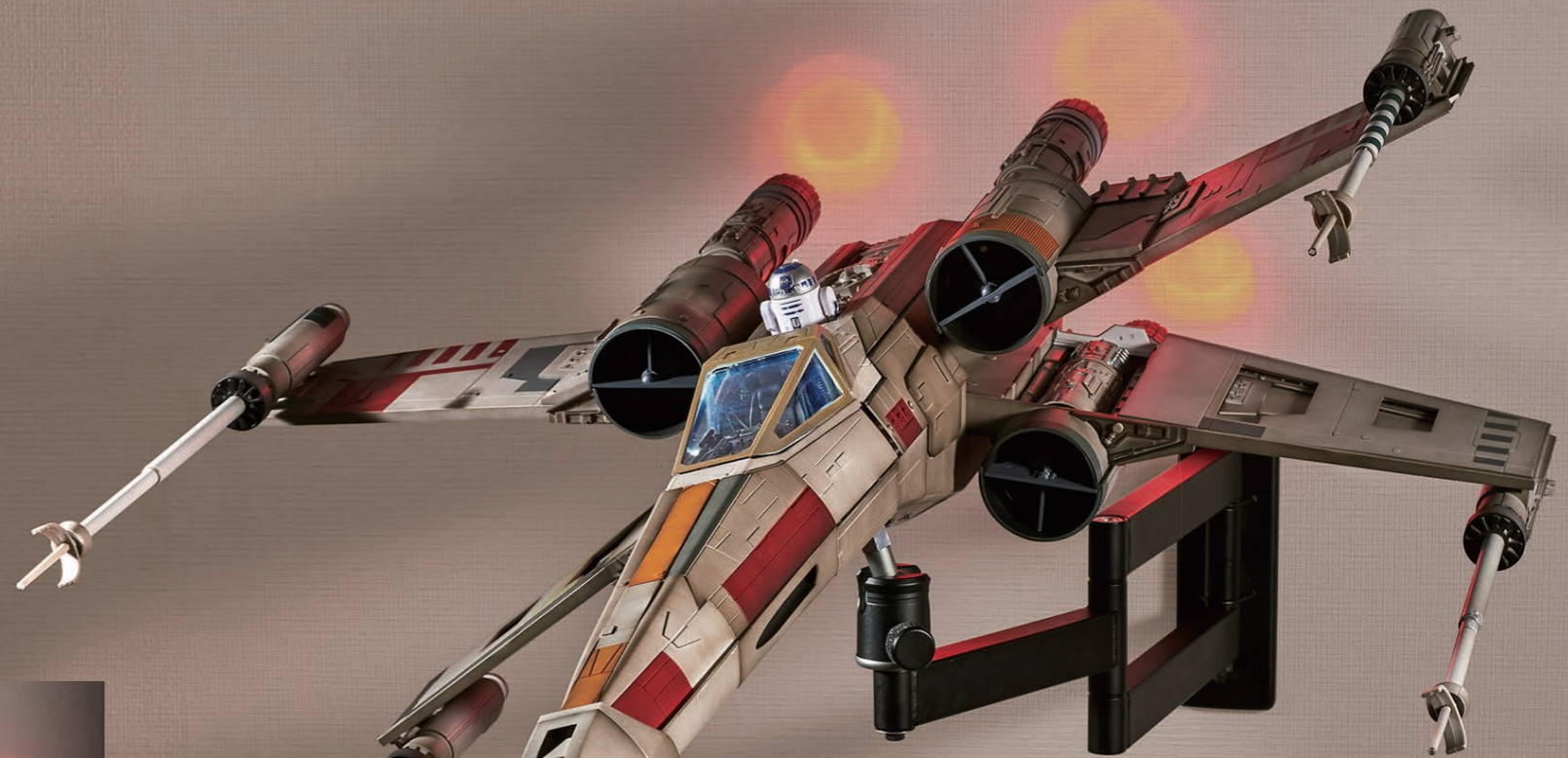
脚回りを取りつけない場合は、別売りの専用ディスプレイブラケット(壁掛け器具)を使用することで、翼を閉じた通常態勢での「飛行」や、モーターを作動させ、翼を開いた攻撃態勢での「飛行」が可能になる。

専用ディスプレイブラケット(別売)



どこでも展示可能な
最強アイテムで
Xウイングを堪能!

ブラケットを直接壁に取り付けられない場合や、壁際以外に設置したい場合は、専用ポール(別売)にブラケットを取り付けてディスプレイしよう。



お好みのフォームでディスプレイ可能!



ブラケットをX-wing下部の穴に取り付ける。

ブラケットの購入方法の
詳細はこちら

DeAGOSTINI
SELECT SHOP

▶ 詳しくはこちらから

https://deagostini.jp/select/series_list.php?title_code=XWG

